

教育者研究会に参加しました！

平成22年8月12日(木)第47回教育者研究会が羽島市文化センターにおいて開催されました。今号はその様子を紹介します。

岐阜県会場は、今年度から2会場での開催となり、関市と羽島市で行われました。テーマは「思いやりの心を育てる」です。我々は羽島市会場に参加しました。羽島市の関係者が周到な準備と立派な設備をもつ会場で、温かく参加者を迎えてくれました。

開会式は、岐阜県モラロジー協議会古川 定邑会長の挨拶の後、国歌斉唱、(財)モラロジー研究所東海ブロック・平林正幸部長による主催者挨拶がありました。また、地元を代表して伏屋教育長の力強い御挨拶も心に残るものでした。



開会の挨拶・古川会長 来賓挨拶・伏屋教育長 閉会の挨拶・子安会長
講演「後世と後生への責任」 紀太 功 先生

長年にわたり、三重県の学校現場や教育行政で実践されてきた事を語っていただきました。後生に託し、後世に期待する紀太先生の優しい人柄からは、教育に対するゆるぎない信念を感じたものです。

平成22年度 教育実践発表

午後の実践発表は、昨年度と変わって3人とも男性の先生方でした。2回の事前検討会にも立ち合わせていただきましたが、三者とも特色ある各校での実践であり、分かりやすいプレゼンにまとめた発表になりました。子安会長のご指導に感謝！！

北方町立北方西小学校・星野 友多教諭からは、学級経営の柱となる学級会と道徳の授業実践を伺いました。(裏面詳述)

瑞穂市立本田小学校・酒井 美弘教諭からは、道徳教育推進教師として、要となる道徳の時間に使う資料の役割を明確にし、児童の関心を引く物に作成し、学校の年間指導計画が充実してきた実践を伺いました。「ニューモラル」に取材した資料開発の工夫と人物を扱った資料を多く採り入れた編成方針が、今後のために大変参考になりました。



大垣市立江並中学校・中山 健一郎教諭からは、小中一貫教育の立場から道徳の授業を中心にした実践交流を伺いました。教師としてお互いを知る努力が、やがては児童・生徒を主体的に動かす原動力になるという確信が伝わってきました。



講演「今、なぜ道徳教育なのか」 渡邊 毅 先生

大学の先生にふさわしい分析力で、今日の状況を語っていただきました。「教育勅語」が「人の道として大切な公の心」を教え育んだ側面を見直すべきではないかとの主張がありました。

「みんなでめざせ！スマイルさん」を核にした学級会と道徳教育

発表者：北方西小学校 星野 友多 教諭

今回は、もとす教道研を代表して、星野教諭が発表しました。

学級経営においては、学級会と道徳の時間の指導が如何に重要であるか、着実な実践を通して主張していただきました。その誠実な実践態度とも併せて、参加者に大好評でありました。



思いやりの心を育てるために

道徳教育の根幹である学級づくり。単学級においては、固定化されがちな人間関係が、否定的に捉えられがちです。そこで、児童のがんばったことやよさを認め合える場を大切にしました。帰りの会などを中心に「みんなでめざせ！スマイルさん」を取り組みました。2学期からは、「よさみつけ」に慣れてきた児童に「学級のためのスマイルさんみつけ」として、質の拡大を願いました。また、行事や学期末の節目には「ほめあげカード」による認め合いをしました。この取組が、児童一人一人の新たな個性を認め合う「思いやりの心」にあふれた仲間関係に育てたのです。

仲間で話し合っ分り合う学級会

学級会は、話し合いで解決しようとする人間を育てる意味でも大切です。「大縄記録会」に向けて、学級を2つのチームに分け競わせることにしました。学級目標は、2チーム合計の跳び数 380 回です。

記録が伸び悩んできた時は、「引っかかる人」を責めたくなくなります。そこで学級会。「一緒にがんばろうとしている気持ち」が分かって「目標のためにがんばる気持ちが、仲間を傷つけていた」ことに気づくことで、お互いを励まし合いながらの取組になりました。当日 507 回の新記録は、学級の力が結集した成果となりました。

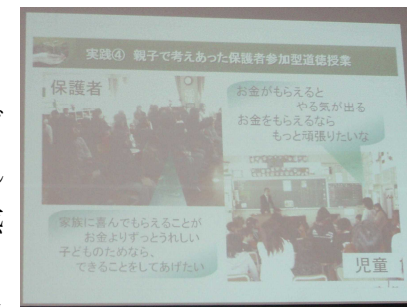
多様な感じ方を学ぶ道徳の時間の指導

道徳の時間には、一つの感じ方を押しつけるのではなく、多様な感じ方があることを広げるようにしています。例えば、資料「泣いた赤鬼」では、「赤鬼はなぜ泣いたのか」について、「青鬼へありがとうの感謝」、「青鬼がいなくなった淋しさによる友達の喪失感」、「自分だけ幸せになっていいのかとの後悔」を深く考える授業になりました。

親子で考える保護者参加型道徳授業

年に一度「ひびきあいの日」には、保護者も参加して、親子で考える道徳の授業をしています。

昨年度は、「ブラッドレーの請求書」を採り上げました。児童からは、ブラッドレーに共感する発表が出されました。保護者からは、母親に共感した思いを語っていただきました。児童は、資料だけでなく、直に母親の温かい思いやりの心を聞くことによって、より価値に迫ることができました。



日々成長する児童のために

「日々成長する児童だからこそ、仲間の新しい『よさ』に気づき、共感しながら高まり合えたのだと思います。そして、同じ仲間であるからこそ、より広く、より深く、仲間と関わることができ、よりよい仲間関係を築くことができるのだと思います。」

星野教諭の確信は、我々にも相通じる思いではないでしょうか。